

# 一度自分の手で解いてみる・・・

2月3日（火）

今日は節分です。中国から伝わる二十四節気は、実際の日本の季節感とは合わないため、二十四節気に合わせて日本の季節を捉えるための「雑節(ざっせつ)」を設けました。そこで「季節の変わり目には邪が入る」として、四季の始まりを表す四つの節気、立春・立夏・立秋・立冬の前に節分を設けたのです。私立高校入試まで1週間となりました。本日も放課後の時間を利用して2回目・3回目



と面接練習を行っています。3年生は入試一色の毎日ですが、1・2年生はどうでしょうか。「入試はまだまだ先」と思っている生徒もいると思いますが、すぐにその日はやってきます。1年後、2年後に向けてしっかりと準備を始めましょう。1年生は40人の1学級ですが、2つに分けて授業を行っている教科もあります。技術（木工）や美術（彫刻）などはどちらも怪我を伴う教科ですから、半分の人数で作業を行うことで教師の指示も通りやすく、安全に作業もできます。以前にも紹介したと思いますが、テレビやラジオでお馴染みの大手通販会社の現社長が家庭学習について以下のような手記を書かれています。～ここから～ 父の会社に進むのだったら、「息子だからというだけで後継者になった」と思われなくなかった。「東京大に行けば大丈夫だろう」。恥ずかしい話ですが、最初はそれだけで何を学びたいとか、どの教授に学びたいという考えはありませんでした。ですが、将来経営に携わりたかったので、1年浪人した後、合格しました。現役の東大入試の日のことは忘れられません。一番得意の数学が始まってすぐ、鼻血を出だして解答用紙が真っ赤に染まりました。答案を交換してもらうのに10分ロス。カんだのでしょう。僕の場合は現役で激しく失敗して、浪人で修正し合格したので、受験生にアドバイスしたいことはいろいろあります。模試の東京大の判定で、現役時代Eだったのが、浪人ではAかBになりました。その経験から気付いたのは、数学、物理の2教科は、答えを見て「なんとなくわかった気になってしまう」ということです。そのため、理解が不十分なまま放置し、1カ月後に同じ問題をやったときに分からないという状況を繰り返します。僕がその悪循環を打開するために取り組んだのは、テキストや模試の問題を、一切答えを見ず最後まで解ききってみるということです。限界までやってみて分からなければもちろん答えを見てもいいのですが、その後はまた一から何も見ずに解いてください。僕の場合は、自作のシートに記録して、5回ほど繰り返しました。【テキストや模試の問題を、一切答えを見ず最後まで解ききってみるということです。限界までやってみて分からなければもちろん答えを見てもいいのですが、その後はまた一から何も見ずに解いてください。】という言葉がポイントです。今までに習ったことをもとに搾り出すように考えることは、たとえ答えが間違っていたとしても、その後に同じような問題を解く時にその時の経験が必ず活かされます。 がんばれ受験生 がんばれ青中生

# ○授業の様子

